皆さんの意見をお聴かせください
パブリックコメント制度

第2次みよし市食育推進計画（案）について意見を募集します

平成21年度に、5カ年計画として「三好町食育推進計画（第1次計画）」（当時）を策定してから、今年で5年を迎えます。みよし市では、今後さらに市民の皆さん一人ひとりが食の大切さを再認識し、心豊かな生活を送れるよう食育推進計画を見直し、新たに「第2次みよし市食育推進計画」を策定します。今回は、その計画案がまとまりましたので公表し、パブリックコメント制度により皆さんからのご意見を募集します。

食育って、なに？

国は、食育基本法（平成17年施行）の中で、

「食育」とは、
○生きる上での基本であって知育、徳育および体育の基礎となるべきもの
○さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること

といっています。食育は、国民みんなが生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるようにするための重要なテーマです。

なぜ食育を推進するの？

昨今、食をめぐる家庭や社会の環境が大きく変化しました。家庭では、一家団らんでの食事の機会が減り、栄養の偏りや不規則な食習慣が要因となる肥満・生活習慣病や摂食障がいが問題となっています。

また、食を提供する側のモラルが低下し、食品表示法義務違反や食品偽装など、食の安全・安心に関わるさまざまな社会問題が発生しています。同時に、家庭や事業所から出されている膨大な量の食べ残しは、環境問題にもつながっています。

国では、食をめぐるさまざまな問題に対応するため「食育基本法」に基づき「食育推進基本計画」を策定し、これを受けて現在、全国で「食育」が推進されています。

みよし市食育推進計画とは

国が「食育基本法」を施行したのを受け、みよし市においても市民の皆さんが健康で心豊かな生活を送れるよう、「食」を支える人づくり、より良い食習慣と安全な「食」での健康づくり、環境づくりを目指して「三好町食育推進計画（第1次計画）」（当時）を平成21年度から平成25年度までの5カ年計画として策定しました。

今年で第1次計画の策定から5年を迎え、今後さらに、市民の皆さん一人ひとりが食の大切さを再認識し、食育に関する施策を総合的に推進していくため、『みなおそう　よく学ぼう・作ろう　しょく食！』をキャッチフレーズとする「第2次みよし市食育推進計画」を、みよし市食育推進会議が中心となって策定するものです。

計画の期間

第2次みよし市食育推進計画の期間は、平成26年度から平成30年度までの5カ年計画とします。

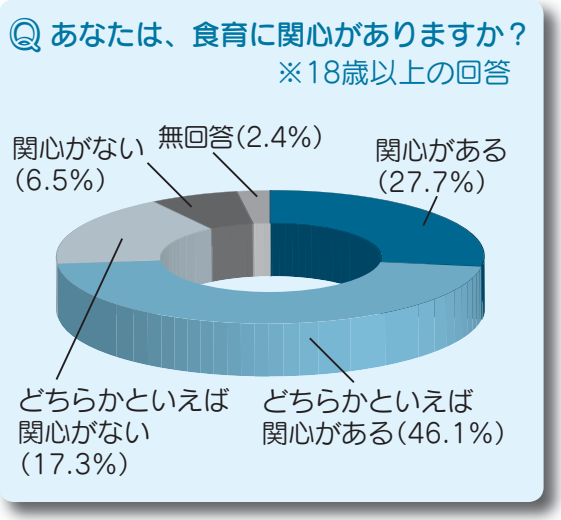
特集

パブリックコメント制度

第２次みよし市食育推進計画（案）について意見を募集します

食育に関するアンケートを実施

第2次みよし市食育推進計画の策定に向けて、より実効性のある計画づくりの参考資料とするため、平成25年7月に保育園・幼稚園の年中児または小学2年生の子どもを持つ保護者、小学5年生、中学2年生、高校2年生、18歳以上の市民の皆さんを対象にした食育に関するアンケート調査（対象者4、278人、回答者3、506人）を実施し、ご意見をいただきました。



食育に「関心がある」「どちらかと言えば関心がある」と回答した人を合わせた割合は73・8%と、平成20年6月に行った第1次計画策定のためのアンケート調査時の66・5%に比べて、7・3%増加しました。

アンケートに寄せられた食育に関する皆さんの声

子どもの時に感じる味覚は、とても大切だと思います。旬の物、国産の物、安心して食べられる物を与えるのが親の役割だと思っています。

（小学2年生の保護者）

私は野菜が苦手なので、少しずつ食べられるようになりたいです。

（小学5年生）

私たちが食べている肉は、牛・豚・鳥などです。これらの動物たちに命をもらって食べさせていただいている気持ちを忘れずに「いただきます」と「ごちそうさま」は欠かさずに言いたいと思います。

（中学2年生）

「食」は人間にとって、とても大事なことなので、子どもたちにはいろいろなことを教えるべきだと思います。それは、料理教室でも農業体験でも、どんな方法でも良いと思いますが、一層活発にやってほしいです。

（18歳以上）

アンケート結果から見えること

今回のアンケート結果と、平成20年6月に行った第1次計画策定のためのアンケート結果を比較することにより、この5年間での、市民の皆さんの食育に関する変化が見えてきました。

平成20年と比べて良くなった点

○「食育」という言葉の認知度
○食育に関心がある人・どちらかといえば関心がある人の割合
○食育ボランティアの活動者数
○農作物の栽培体験者数
○料理教室への参加者数
○栄養バランスに気を付けている人の割合
○肥満の人の割合

平成20年と比べて変わらなかった、もしくは悪くなった点

○朝食を家族と一緒に食べる人の割合
○朝食を食べる人の割合
○よくかんで食べる人の割合
○食事バランスガイドの認知度
○食品表示を確認する人の割合
○地元産の食材を買うように努めている人の割合

みよし市の目指す食育

アンケートの結果から、みよし市の食育の現状は、食育に対する市民の皆さんの認知、関心は高まってきたものの、日常生活の中で十分に食育を実践できているという状況までには至っていません。

この状況を踏まえ、第2次みよし市食育推進計画では、市民の皆さんが目指す食育と暮らしについて、第1次計画から主に次の3点を変更します。

1　基本理念を次のように改めます

「食を通した、人づくり、健康づくり、環境づくり」

2　新たに行動指針を定めます

①市民一人ひとりが「食育はじめの一歩」を踏み出そう

（具体例）よくかんで食事をする。食事の準備や片付けを手伝う。いろいろな食べ物を味わい、味覚を育てる。

②家族と一緒に楽しみながら、望ましい食習慣を身に付けよう

（具体例）家族と楽しく会話をしながら食事を楽しむ。毎日、朝食を食べる。

③自立した人（青年期）として食への関心を高めるよう努めよう

（具体例）季節の旬の食材を知り、地域独自の食文化に関心を持つ。食品の産地や栄養などの表示に関心を持つ。食と健康に関する知識を身に付ける。

第2次みよし市食育推進計画の体系図

基本理念　食を通した、人づくり、健康づくり、環境づくり

基本目標　1
～人づくり～
食の大切さや、楽しさが分かる心豊かな人材（人）を育てます

①食の正しい知識を身に付け、食に対する感謝の心を育てます
②楽しい食事の場づくりの大切さを伝えます
③農作物の栽培や料理教室など体験型の学習と食文化の継承を進めます
④食育を広めるための人材の育成、関係者との連携を進めます
⑤食育に関する情報提供やＰＲを進めます

基本目標　2
～健康づくり～
食を通して、健康な体を育みます

①バランスの取れた食生活の大切さを伝えます
②望ましい食習慣を身に付け、生活習慣病を予防します
③食の安全について関心を高めます

基本目標　3
～環境づくり～
食に関する環境を整えます

①環境にやさしい食生活や活動を進めます
②地産地消を進めます

行動指針
①市民一人ひとりが「食育はじめの一歩」を踏み出そう
②家族と一緒に楽しみながら、望ましい食習慣を身に付けよう
③自立した人（青年期）として食への関心を高めるよう努めよう

３ 家庭を中心とした食育のネットワークづくりを進めます

食育に関する取り組みの実効性を高めるためには、食に関わるさまざまな関係者が、その役割と特性を生かしながらお互いが連携、協力して事業を展開していくことが重要です。

家庭を中心として、保育園・幼稚園・学校・地域・農業団体・事業所・医療機関・行政などが、市民の皆さんとの協働により食育を推進するためにネットワークづくりを進め、食育推進活動の要としていきます。

家庭を中心としたネットワークづくり

保育園・幼稚園・学校

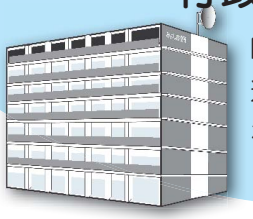
子どもの健全な育成に重要な役割を果たしている保育園・幼稚園・学校は、集団生活を通して食の楽しさを体得する場として食育の推進を図るうえで重要な役割を担います。

地域・各種団体 生産者・事業所

地域の特色や食文化を生かして食文化の継承や食育体験の場、地域の食生活の改善を図る場、食に関する情報に対して関心を高める場として、大切な役割を担います。

家庭

家庭は、食の大切さを学び、食育を実践する最も基本となる場所です。食の楽しさや感謝の心を伝えていくことが大切です。また、自分でできることは進んで行いましょう。



行政

行政は、学校などと連携して市民や地域、関係機関などとの協働により総合的食育を進め、食育に対する市民の関心を高め、食を通した、人づくり、健康づくり、環境づくりを推進する役割を担います。

具体的な取り組み

食べることは、誰もが一日も欠かさずにする、生きるための基礎です。市民の皆さん一人ひとりが一生を通して自分の食のあり方について考え、実践する力を付けることが必要です。食をめぐるさまざまな課題を解決するため、一生を乳幼児期から、少年期、青年期、壮年期、中年期、高齢期という6つのライフステージに分け、それぞれのステージでの重要テーマを明らかにして、具体的な取り組みを行っていきます。各ライフステージ別の取り組みについて年代ごとのポイントと、基本目標(①人づくり②健康づくり③環境づくり)ごとの取り組みポイントについて紹介します。

ライフステージ別の取り組み

Stage 1 乳幼児期(0歳から5歳ごろ)

乳幼児期は、身近にある食材を見たり触ったりすることで、命の存在や自然の恵みを感じ、食に対する関心を高める時期です。家族と一緒に、楽しく食事をすることが大切です。

①人づくりポイント
家族と一緒に食べることの楽しさを知る

②健康づくりポイント
よくかんで食べるなど、食事の仕方を身に付ける

③環境づくりポイント
食べ残しが良くないことを知る　など

Stage 2 少年期(6歳から18歳ごろ)

少年期は、家庭や学校を中心とした生活の中で、健康づくりの基礎となる望ましい食習慣を身に付ける時期です。健康な生活のため、食の基礎を習得することが大切です。

①人づくりポイント
料理づくりなどにより食への関心を高める

②健康づくりポイント
食生活や健康、バランスのとれた食事について学ぶ

③環境づくりポイント
体験学習を通して、農業の大変さ、食の大切さを学ぶ　など

Stage 3 青年期(19歳から29歳ごろ)

青年期は、体と心の成長が終わり、保護者から自立し始める時期です。外食の機会も多くなることから、自分の健康は自分で守ることの大切さを認識し、今まで学んだ正しい知識を基に健全な食生活を送ることが大切です。

①人づくりポイント
家族や友人との食事を楽しむゆとりを持つ

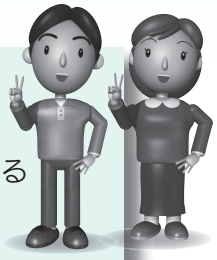
②健康づくりポイント
食事量に気を付け、適性体重を維持する

③環境づくりポイント
体験学習を通して、農業の大変さ、食の大切さを学ぶ　など

特集

パブリックコメント制度
第２次みよし市食育推進計画（案）について意見を募集します

Stage 4 壮年期（30歳から44歳ごろ）



結婚や子育てなどにより、生活が大きく変化する時期です。この時期の生活リズムの乱れが、生活習慣病の原因になることから、食事を選択し、自己をコントロールする能力を身に付けることが大切です。

①人づくりポイント
親として、子どもが楽しく食事できるように努める
②健康づくりポイント
メタボリックシンドロームの予防に心掛ける
③環境づくりポイント
地産地消を心掛け、地元の食材を使うようにする　など

Stage 5 中年期（45歳から64歳ごろ）

家庭や社会の中で、役割と責任が増す時期です。身体的な機能が徐々に低下し、メタボリックシンドロームや歯周病などの問題が起きやすいことから、自分に合った食生活を実践することが大切です。

①人づくりポイント
食を通したボランティア活動に取り組む
②健康づくりポイント
かかりつけの病院を持ち、定期健診を受ける
③環境づくりポイント
食品などのムダを減らし、環境に優しい生活をする　など

Stage 6 高齢期（65歳以上）

退職や子どもの自立などにより、生活が変化する時期です。体や環境の変化に合わせて食事を見直し、必要な栄養をバランスよくとることが大切です。また、食文化を次世代に伝えることができる時期です。

①人づくりポイント
伝統料理に親しみ、自分で料理することを楽しむ
②健康づくりポイント
自分に合った歯磨きを続け、かみにくいと感じたら放置しないように心掛ける
③環境づくりポイント
食品などのムダを減らし、環境に優しい生活をする　など

●皆さんのご意見をお聴かせください●

「第2次みよし市食育基本計画（案）」に対する皆さんのご意見をお聴かせください。また、この内容は、みよし情報プラザ（市役所1階）、サンネット、またはみよし市ホームページ（URL http://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp）でもご覧になれます。

▶**意見の提出方法**＝12月1日（日）から平成26年1月6日（月）までに住所・氏名・電話番号を明らかにして、産業課へ次のいずれかの方法で（様式は任意）

①**郵便**…〒470-0295（住所記入不要）
②**電子メール**…✉sangyo@city.aichi-miyoshi.lg.jp
③**ファクス**… FAX(34)4189
④**直接**
▶問い合わせ＝産業課　☎(32)8015　FAX(34)4189